

# 教育課程

# 人文科学研究科 日本文化専攻（修士課程）

## 1. 教育課程編成の考え方

### ○カリキュラムポリシー

〈人文科学研究科〉

各専攻に配置された、多様な講義科目や演習科目、実習科目の履修を通じ、思考力・判断力あるいは表現力・技能を身につけるとともに、修士論文を作成するための知識と技術を学ぶ専門的な演習科目において、各自の研究テーマと計画に応じて独創的な研究を行います。

〈日本文化専攻〉

日本思想、日本芸術、日本民俗・社会、日本文学という日本文化の四領域の基礎を学ぶために「通論」を配置します。さらに個々の領域における専門的な研究を深めるために「特論」を配置する。修士論文を作成するための知識と技能を修得するために「日本文化演習」を配置します。

日本の文化は、様々な文献資料によって把握し理解することができる「表層文化」と、文献だけでは把握することができない「基層文化」によって構成されている。思想、芸術、文学といった目に見える形で表現される表層文化とともに、社会における民俗という基層文化を解明することは、「日本文化」というコインの表裏を眺め全体像を明らかにするために必要不可欠のものである。

女性の社会進出が進んだ現在、女子大学を基礎とする大学院としては、「日本の文化と女性の関わり・在り方」等についても意識化して研究を組織したい。

日本文化専攻の学生は、1年次に通論科目を履修し、日本文化研究の全体像を把握するとともに、専攻分野に応じて研究指導教員が担当する演習（ゼミナール）に所属し、指導教員により早い時期から修士論文の作成に向けた指導を受ける。

### ①必修科目

#### 【通論科目】

日本文化専攻は、[日本思想][日本芸術][日本民俗・社会][日本文学]の4領域が柱になる専攻分野として設定している。この4領域について、日本文化を研究するために必要な総合的で多角的な識見を涵養するために、必修科目として、5つの通論科目を開講する。

#### 【日本文化演習】

日本文化専攻の学生は、専攻の柱となる[日本思想][日本芸術][日本民俗・社会][日本文学]の4領域のいずれか一つ、又は複数履修する。

### ②選択科目

柱になる領域に関する「日本思想特論」「日本思想史特論」「日本芸術特論」「日本美術史特論」「民俗学特論」「女性史特論」「日本社会史特論」「日本文学特論」「日本文学史特論」に加え、日本文化を語る際に切っても切り離せない学問領域に関わる科目として「東洋思想特論」「日本芸能特論」「文化人類学特論」「比較文化特論」を開講する。特論は、特殊な領域のテーマに関し、専門的研究の方法を修得するとともに、その学識を深めるために設けるもので、講義の形式で実施される。各学生の専攻分野に関する科目だけでなく、隣接する分野の科目を履修することで、日本文化に関する総合的な理解を深めるとともに、各領域の研究者の視点や研究方法を学ぶ。

## 2. 履修指導及び研究指導の方法

講義科目の履修は、学習効果の増大を図るため、1学年度を春学期・秋学期に分けることにより、第1から第4セメスターにわたるセメスター制度とし、研究指導と併行して行う日本文化演習については、通年（2セメスター連続）で2年間にわたり履修する。

日本文化専攻の学生の学修は、演習科目を中心に展開する。第1セメスターから日本文化演習を履修す

ることで、これらを担当する研究指導教員の下で、修士論文作成に向けた準備を進める。

第1 Semesterの履修登録時に修士論文指導教員の申請を行い、研究科委員会の議を経て決定する。学生は、第1から第4 Semesterまで修士論文指導教員の担当する日本文化演習を履修する。また、研究テーマに隣接する分野の演習の履修も可とする。

学生が研究領域を変更しようとする場合は、研究科委員会の審査及びその議を経て、第3 Semesterの履修登録時に指導教授を変更することができることとする。

第1・第2 Semesterでは、研究方法や論文の作成手順等の指導を受け、第3 Semesterに中間報告会を開催し、そこでの指摘を踏まえて論文の題目を決定する。第4 Semesterには、修士課程における研究成果を修士論文として提出する。

講義科目の履修についても、演習担当教員の助言の下、自らの専攻領域に関する科目を中心に系統的な履修を行う。

なお、学芸員や司書といった資格の取得や日本文化に関する学部段階レベルの知識を必要に応じて補わせるため、学生が学部専門科目を履修できるよう配慮する。ただし、修得した単位は、学部の単位として認め、修士課程の修了要件としては認めない。

### ○研究指導（修士論文作成指導）スケジュール

年次	Semester	事項	研究指導関連科目の履修
1年次	第1 Semester	[4月] 指導教員決定	日本文化演習
	第2 Semester		
2年次	第3 Semester	[4月] 中間報告会	
	第4 Semester	[1月] 修士論文提出	

### 3. 授業科目の履修

授業科目の名称		配当年次	単位数又は時間数		開講期	担当教員	備考
			必修	選択			
必修科目	日本思想通論	1	2		春学期	真辺 美佐	半期2単位、10単位必修。
	日本芸術通論	1	2		秋学期	北澤 憲昭	
	民俗学通論	1	2		春学期	塩月 亮子	
	日本社会史通論	1	2		春学期	泉 雅博	
	日本文学通論	1	2		秋学期	植田 恭代	
	日本文化演習	1・2	4		通年	泉 雅博 植田 恭代 真辺 美佐 矢島 新	通年4単位、8単位必修。16単位まで修了要件として認める。ただし、1年に8単位を超えて履修することができない。
選択科目	日本思想特論	1・2		2	秋学期	真辺 美佐	半期2単位、12単位以上選択（必要を超えて修得する日本文化演習を含む）。日本文学史特論は、開講期が異なり、かつ、担当教員が異なれば、複数回履修することができる（修了要件単位として認める）。
	日本思想史特論	1・2		2	本年度休講		
	東洋思想特論	1・2		2	秋学期	井ノ口哲也	
	日本芸術特論	1・2		2	春学期	矢島 新	
	日本美術史特論	1・2		2	本年度休講		
	日本芸能特論	1・2		2	本年度休講		
	民俗学特論	1・2		2	春学期	鈴木 明子	
	女性史特論	1・2		2	本年度休講		
	日本社会史特論	1・2		2	秋学期	泉 雅博	
	文化人類学特論	1・2		2	秋学期	森谷裕美子	
	日本文学特論	1・2		2	秋学期	植田 恭代	
	日本文学史特論	1・2		2	本年度休講		
	比較文化特論	1・2		2	春学期	森 まり子	

#### 修了要件

大学院に2年（2年以外の標準修業年限を定める研究科、専攻又は学生の履修上の区分にあっては、当該標準修業年限）以上在学し、30単位以上（内訳は下記のとおり）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、本大学院の行う修士論文の審査及び試験に合格することとする。

日本文化専攻修了要件単位数内訳 必修科目18単位を含む30単位以上

# 人文科学研究科 臨床心理学専攻（修士課程）

## 1. 教育課程編成の考え方

### ○カリキュラムポリシー

#### 〈人文科学研究科〉

各専攻に配置された、多様な講義科目や演習科目、実習科目の履修を通じ、思考力・判断力あるいは表現力・技能を身につけるとともに、修士論文を作成するための知識と技術を学ぶ専門的な演習科目において、各自の研究テーマと計画に応じて独創的な研究を行います。

#### 〈臨床心理学専攻〉

国家資格である「公認心理師」になるために必要な科目を配置し、公認心理師資格取得に対応します。

また、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会が認める第一種指定大学院として、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会が定めるカリキュラムに基づいた科目を配置し、臨床心理士資格取得に対応します。

心理臨床家としての知識・技能・態度を修得します。

科学的な研究手法、態度、倫理観を養うために、修士論文を作成します。

#### ①必修科目

臨床心理学専攻では、「公認心理師になるために必要な科目」ならびに「臨床心理士対応科目」に基づき、専門業務に対応する必修科目を開講する。

#### ②選択科目

「公認心理師」資格取得を目指す場合、「公認心理師になるために必要な科目」を修得する必要がある。

「臨床心理士」資格取得を目指す場合、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会の定めるA～E群各群から2単位以上を修得する必要がある。

## 2. 履修指導及び研究指導の方法

臨床心理学専攻の教育課程は、本学の附属教育研究組織である心理教育相談所で実施される実習と学外施設での実習に重点を置いている。

第1・第2セメスター（1年次）の臨床心理基礎実習では、第3・第4セメスター（2年次）における心理実践実習Ⅰ（臨床心理実習A）・心理実践実習B、臨床心理実習Ⅱの前段階と位置づけ、インテーク及び面接技法などの業務に関する基礎的な知識、能力を身に付ける。

心理実践実習Ⅰ（臨床心理実習A）では、学外実習と学内での授業を並行して行う。学外実習では公認心理師の業務に関連した分野（保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働）に該当する施設のうち、3分野以上の施設で実習を行う。保健医療分野の学外実習は必須である。施設では実習指導者の指導を受けながら、公認心理師の業務について体験的に学ぶ。学内の授業では、実習の振り返りを中心に行う。

心理実践実習Bでは、指導教員のスーパービジョンの下で、心理教育相談所における臨床事例（ケース）を直接受け持つ。スーパービジョンを個別に行い、きめの細かい指導を行う。なお、心理実践実習A・Bは450時間以上、そのうち担当ケースに関する実習の時間は270時間以上（うち、学外施設での当該実習時間は90時間以上）とする。

臨床心理実習Ⅱでは、事例検討会などの多様な形式で担当事例について指導教員のスーパービジョンを行う。

臨床心理基礎実習、心理実践実習Ⅰ（臨床心理実習A）、臨床心理実習Ⅱ、心理実践実習Bはいずれも2単位、必修とするので、学生は2年間の臨床体験を積むこととなる。また、これらの経験を修士論文の作成に活かし、臨床心理学的考察に深さと広がりをもたせる。

また、臨床心理学専攻では、1年次は必修の講義・演習科目の履修を通じて基礎を固め、2年次に臨床心理演習を履修して修士論文の作成に向けた指導を受ける。2年次に履修する臨床心理演習の指導教員である修士論文指導教員の登録は、1年次において実施するオリエンテーションの後に学生各自に専攻領域を希望させ、研究科委員会の議を経て決定する。

なお、学部段階レベルの知識を必要に応じて補うため、学部専門科目の履修が可能となるよう配慮する。ただし、修得した単位は、学部の単位として認め、修士課程の修了要件としては認めない。

### ○研究指導（修士論文作成指導）スケジュール

年 次	セメスター	事 項	研究指導関連科目の履修
1年次	第1セメスター		必修科目を中心に臨床心理学の諸分野を幅広く学ぶ。
	第2セメスター	[11月] オリエンテーション 指導教員決定	
2年次	第3セメスター	[7月] 中間報告会	臨床心理学演習
	第4セメスター	[1月] 修士論文提出	

## 3. 授業科目の履修

区分	区臨公	授業科目の名称	配当年	単位数又は時間数		開講期	担当教員	備考
				必修	選択			
必修科目	必	臨床心理学特論	1	4		通年	板東 充彦	必修24単位
	必 ⑦	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	1	2		春学期	野島 一彦	
	必	臨床心理面接特論Ⅱ	1	2		秋学期	野島 一彦	
	必 ⑥	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	1	2		春学期	酒井 佳永	
	必	臨床心理査定演習Ⅱ	1	2		秋学期	酒井 佳永	
	必	臨床心理基礎実習	1	2		通年	小栗 貴弘 田中 松嵩 くみ子	
	必 ⑩	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習A）	2	2		通年	新井 雅 宮岡 圭子 宮崎 圭子	
	必	臨床心理実習Ⅱ	2	2		通年	野島 一彦 板東 充彦 前場 康介	
	非 ⑩	心理実践実習B	2	2		通年	新井 雅 酒井 佳永 野島 一彦 松嵩 松嵩 くみ子 宮岡 圭子 宮崎 圭子	
必	臨床心理学演習	2	4		通年	酒井 佳永 野島 一彦 板東 充彦 松嵩 松嵩 くみ子 宮岡 圭子 宮崎 圭子		
選択科目	A	心理統計法特論	1・2		2	春学期	前場 康介	半期2単位、6単位以上選択。 臨床心理学研究法特論は、開講期が異なり、かつ、担当教員が異なれば、複数履修することができる（修了要件単位として認める）。 ※臨床心理士受験資格については下記参照。
	A	臨床心理学研究法特論	1・2		2	秋学期	新井 雅	
	B	発達心理学特論	1・2		2	春学期	松嵩 松嵩 くみ子	
	B	学習心理学特論	1・2		2	春学期	山本 淳一	
	C ⑧	家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	1・2		2	春学期	布柴 靖枝	
	C ④	犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	1・2		2	春学期	市村 彰英	
	D ①	精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	1・2		2	秋学期	宮岡 圭子	
	D	老年心理学特論	1・2		2	春学期	阿部 洋子	
	D ②	障害者（児）心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	1・2		2	秋学期	藤岡 孝志	
	E	心理療法特論	1・2		2	春学期	小栗 貴弘	
	E	グループ・アプローチ特論	1・2		2	春学期	小栗 貴弘	
	③	教育分野に関する理論と支援の展開	1・2		2	秋学期	新井 雅	
⑤	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	1・2		2	秋学期	宮崎 圭子		
⑨	心の健康教育に関する理論と実践	1・2		2	秋学期	小栗 貴弘		

## 修了要件

大学院に2年（2年以外の標準修業年限を定める研究科、専攻又は学生の履修上の区分にあつては、当該標準修業年限）以上在学し、30単位以上（内訳は下記のとおり）を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、本大学院の行う修士論文の審査及び試験に合格することとする。

## 臨床心理学専攻修了要件単位数内訳 必修科目24単位を含む30単位以上

※公認心理師を受験するためには、①～⑩すべての科目を修得する必要がある。

※臨床心理士を受験するためには必修科目（心理実践実習Bをのぞく）および選択科目のA～E群すべてから各2単位以上を修得する必要がある。

# マネジメント研究科 マネジメント専攻（修士課程）

## 1. 教育課程編成の考え方

### ○カリキュラムポリシー

〈マネジメント研究科マネジメント専攻〉

高度なマネジメントの基礎となる「マネジメント通論」及び「リスクマネジメント通論」を必修科目として学びます。特論科目である講義科目により幅広い分野のマネジメントに関する高度な専門知識を学びます。演習科目により、修士論文を作成するための高度な知識と技能を身につけます。

マネジメント研究科マネジメント専攻の教育課程では、実践的で総合的なマネジメント・マインドを十分に具え、多様な職業領域で指導的役割を果たし、そこで高度なマネジメント能力を実際に発揮することのできる人材を養成する。

講義形式で行われる科目は通論科目と特論科目に分けられる。通論科目は1年次必修で、特論科目は必要単位以上修得する必要がある。

演習科目はマネジメント演習である。研究指導教員が担当する演習（ゼミナール）に所属し、早い時期から修士論文の作成に向けた指導を受ける。

### ①通論科目

研究科におけるマネジメントを学ぶための概論的な科目として「マネジメント通論」「リスクマネジメント通論」を開設し、1年次必修とする。

マネジメント通論は、学際的な「マネジメント」という概念について、さまざまな視点から学ぶ。リスクマネジメント通論は、企業経営においても公共経営においても重要なリスクマネジメントを学ぶ。

### ②特論科目

学生は、特論科目を18単位以上修得することとする。特論科目は、講義形式で行われ、特定領域のテーマに関してその学識を深めるとともに、専門的研究の方法を修得する。各学生の専攻分野に関する授業科目だけでなく、隣接する分野の授業科目を履修することで、マネジメントに関する総合的な理解を深めるとともに、各領域の研究者の視点や研究方法を学ぶ。

### ③演習科目

演習科目では、問題を発見し分析しながら、自ら解決していく能力を身につけていく。各セメスターにおいて演習科目を受講することで、修士論文の作成を段階的に進めていくことができる。第1セメスターは「マネジメント演習ⅠA」、第2セメスターは「マネジメント演習ⅠB」、第3セメスターは「マネジメント演習ⅡA」、第4セメスターは「マネジメント演習ⅡB」に原則対応している。

## 2. 履修指導及び研究指導の方法

特論科目の履修は、学習効果の増大を図るため、1学年を春学期・秋学期に分けることにより、第1セメスターから第4セメスターにわたるセメスター制度としている。研究指導と併行して行うマネジメント演習については、形式上4つのセメスターに分かれているが、同一研究指導教員の演習を2年間にわたり履修することを原則とする。

マネジメント専攻の学生の学修は、演習科目を中心に展開する。第1セメスターからマネジメント演習を履修することで、これらを担当する研究指導教員の下、修士論文作成に向けた準備を進める。第1セメスターの履修登録時に修士論文指導教員の申請を行い、研究科委員会の議を経て決定する。学生は、第1から第4セメスターまで修士論文指導教員の担当するマネジメント演習を履修する。また、研究テーマに隣接する分野の演習の履修も可とする。



学生が研究分野の変更をしようとする場合は、研究科委員会の審査及びその議を経て、第3セメスターの履修登録時に指導教員を変更することができることとする。

第1、第2セメスターでは、研究方法や論文の作成手順等の指導を受け、原則として11月に中間報告会を開催する。第3セメスターの7月には、2回目の中間報告会を開催し、そこでの指摘を踏まえて論文の題目を決定する。第4セメスターには、修士課程における研究成果を修士論文として提出する。

特論科目の履修についても、演習担当教員の助言の下、自らの専攻領域に関する科目を中心に系統的な履修を行う。

なお、学芸員や司書といった資格の取得やマネジメントに関する学段落階レベルの知識を必要に応じて補わせるため、学生が学部専門科目を履修できるよう配慮する。ただし、修得した単位は、学部の単位としてのみ認め、修士課程の修了要件としては認めない。

### ○研究指導（修士論文作成指導）スケジュール

年次	セメスター	事項	研究指導関連科目の履修
1年次	第1セメスター	[4月] 指導教員決定	マネジメント演習ⅠA・ⅠB
	第2セメスター	[11月] 中間報告会	
2年次	第3セメスター	[7月] 中間報告会	マネジメント演習ⅡA・ⅡB
	第4セメスター	[1月] 修士論文提出	

### 3. 授業科目の履修

授業科目の名称		配当年次	単位数又は時間数		開講期	担当教員	備考
			必修	選択			
通論科目	マネジメント通論	1	2		春学期	板越 正彦	
	リスクマネジメント通論	1	2		春学期	佐藤 敦	
特論科目	人材マネジメント	1・2		2	春学期	崔 勝渥	
	サステイナブルマネジメント	1・2		2	春学期	宮崎 正浩	
	経済予測論	1・2		2	秋学期	山澤 成康	
	キャリアマネジメント	1・2		2	秋学期	板越 正彦	
	グローバルマネジメント	1・2		2	本年度休講		
	マーケティング論	1・2		2	秋学期	丸岡 吉人	
	財務マネジメント	1・2		2	本年度休講		
	戦略経営論	1・2		2	秋学期	中西 哲	
	観光経営論	1・2		2	本年度休講		
	企業ファイナンス	1・2		2	秋学期	松澤 孝紀	
	起業論	1・2		2	本年度休講		
	ベンチャーマネジメント	1・2		2	春学期	板越 正彦	
	ソーシャルビジネス	1・2		2	秋学期	細川 淳	
	保健福祉論	1・2		2	本年度休講		
	都市環境論	1・2		2	秋学期	村田 あが	
文化マネジメント	1・2		2	本年度休講			
ファッションマネジメント	1・2		2	春学期	内村 理奈		
演習科目	マネジメント演習ⅠA	1	2		春学期	石塚 正敏 笠原 清志 曾田 修司 臺 純子 細川 淳 丸岡 吉人 宮崎 正浩 村田 あが 山澤 成康 山田 秀樹	
	マネジメント演習ⅠB	1	2		秋学期	石塚 正敏 笠原 清志 曾田 修司 臺 純子 細川 淳 丸岡 吉人 宮崎 正浩 村田 あが 山澤 成康 山田 秀樹	
	マネジメント演習ⅡA	2	2		春学期	笠原 清志	
	マネジメント演習ⅡB	2	2		秋学期	笠原 清志	

一 通論科目 4単位、特論科目18単位以上、演習科目 8単位修得しなければならない。